

《2023年度 ICD日本部会 年末集会 特別講演》

歯科界にルネッサンスを起こそう！

日本歯科医師会 会長

高橋 英 登



●抄 録●

食べる喜び、話す楽しみはQOL維持のために重要である。口腔環境は全身疾患と密接に関係しており、改善すれば増え続ける医療費を抑制できる。つまり歯科健診などを起点に潜在的疾患に早期に対処すれば患者さんは健康長寿、国にも好結果となる。歯科にはまだまだ活躍の余地が多く、自信と尊厳を持ってそれに対処したい。

キーワード：口腔環境、国民皆保険制度、国民皆歯科健診

口は食物の入り口、つまり命の入り口である。口腔環境が全身の健康に強く関係していることは周知の事実であり、口腔環境を改善することにより、疾病予防につながることから増え続ける医療費を抑制することも明白である。そのためには歯科にそれを実現することが可能な予算を充当することが得策である。しかし1981年を100とした場合、2020年の消費者物価指数は128であるのに対し、歯科診療所（個人立）の損益差額は62に減少している（図1）。歯科医療費には貴金属の高騰の影響も含まれているので一見微増しているように見えるが、令和3年度の歯科診療所の損益差額は1,000万円未満が6割を超えており、長期間苦しい経営が続いているのが現状である（図2）。他の業界のように従業員の賃金を上げたくても、公定である診療報酬が上がらなければ保険診療が中心の歯科診療所では困難であろう。

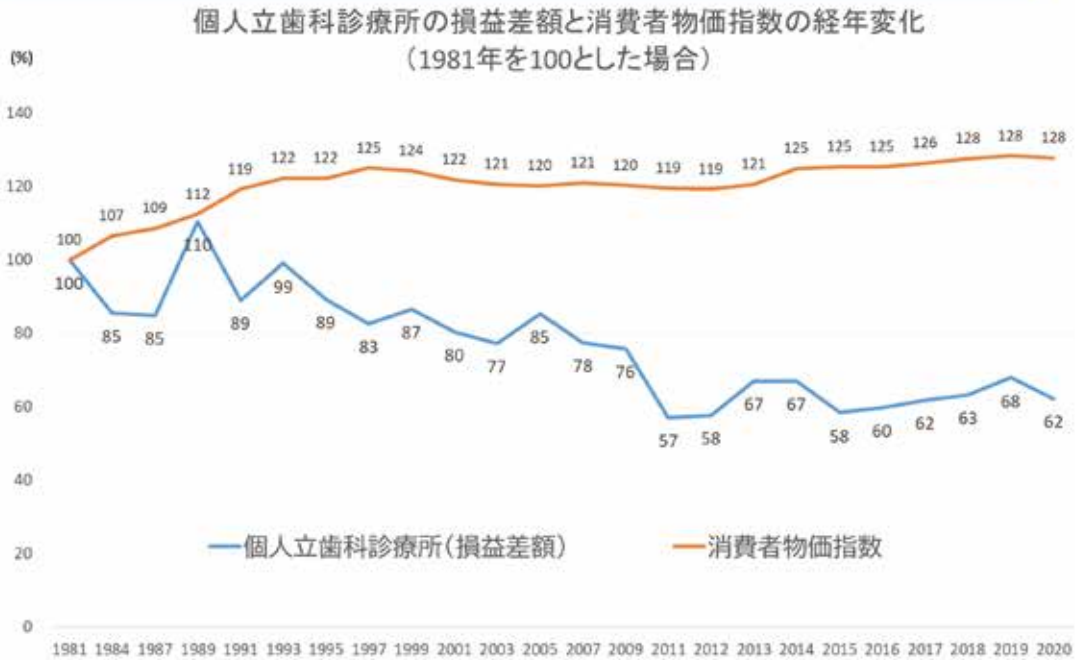
日本の歯科医療は世界のトップレベルであると考えられる。さらに日本には世界に誇れる国民皆保険制度が存在し、誰でも安価で診療を受けることができる。この皆保険制度は、先進国の中では極めて低い診療報酬に耐えている歯科医療者の献身的な努力により成り立っている。しかしこのまま歯科医療者が犠牲になる状態

が続くのであれば、大切な国民皆保険制度が維持できない危険もある。

毎年、政府は骨太の方針を提示している。これは経済財政運営と改革の基本方針のことであり、予算編成に向けて国の政策の基本的な方向性を示すものである。2021年の骨太の方針には「生涯を通じた切れ目のない歯科健診」が記載されたが、翌2022年には「生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の具体的な検討」が明記され、マスコミに取り上げられて話題になった。この後に続く「疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実」と合わせて考えると、口腔環境が改善されれば全身疾患が軽減または減少する、つまり国民が健康になり、医科も含めた総医療費を削減できることに国が気づいたのだろう。

歯科への受診が歯の喪失の抑制と関連することを、233,555人（20～74歳）のビッグデータの解析により確認したと、2023年の春季日本歯周病学会学術大会で報告された。国民皆歯科健診が効果的であるということだろう。診療が始まれば患者さんと我々は一生の付き合いとなるが、患者さんは加齢とともに変化していく。この変化に追従するためには「永久修復」という

消費者物価指数と比較しても、個人立歯科診療所損益差額は低迷している

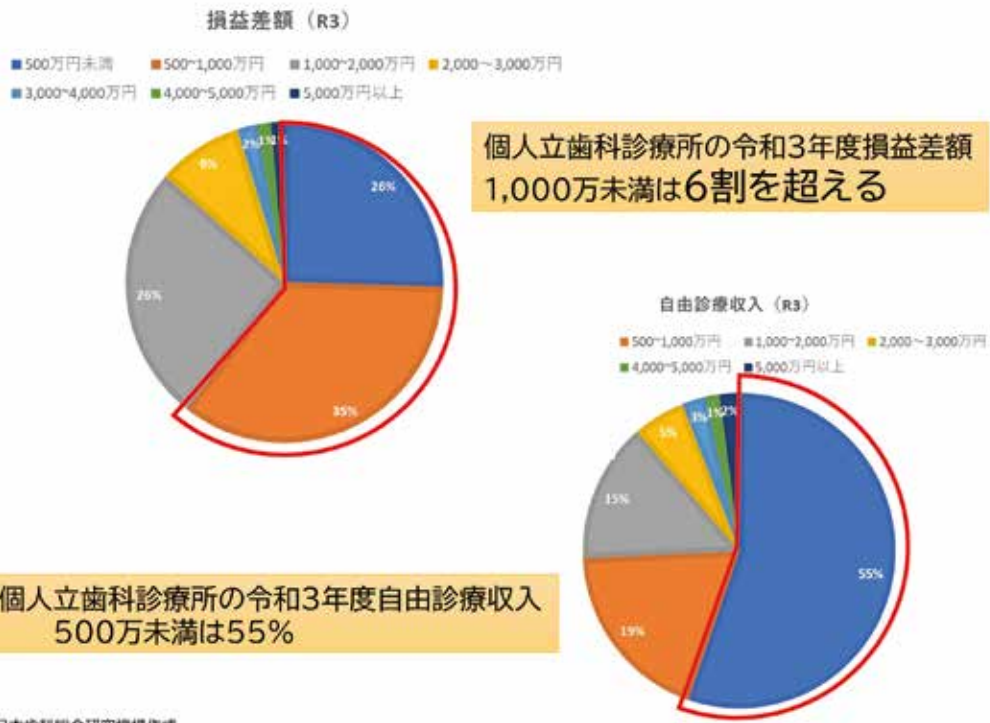


日本歯科総合研究機構作成

医療経済実態調査より作成

図1 消費者物価指数と個人立歯科診療所損益差額の推移

令和4年度東京都歯科医業経営総合調査報告より



日本歯科総合研究機構作成

図2 令和3年度 個人立歯科診療所の損益差額と自由診療収入

考え方を改め、例えば咬合に関与するある程度の部位が象牙質になったら、ポーセレン、ジルコニアなどの硬い材料をハイブリッドレジンといった摩耗してくれる材料に交換するなどして、残存組織を守ることも考えるべきであろう。現在では多くの歯科材料や診療方法が存在する。我々も診療の選択肢をできるだけ多く所有し、臨機応変に患者さんに対応したい。

疾病だけでなく、障害にも立ち向かうのが歯科医療である。健康で楽しく生活するためには歯科医療が大切であることを国民に周知し、それにより国民が味方になれば国も動くであろう。国民皆歯科健診がその

きっかけになる可能性はある。健診等を起点としてう蝕や歯周病などに対処することにより、高齢者の残存歯数が増えれば、咬耗や楔状欠損といった Tooth Wear などの症例も増加する。まだ多くの潜在している需要が眠っているのである。さらに、口腔環境を改善させることにより全身疾患を軽減・減少させられるのであれば、我々が活躍しなければならない場面はまだまだまだたくさんある。前向きに自信と尊厳を持ってこれらに取り組みたい。中世の暗黒時代から抜け出したルネッサンスのように、歯科の未来は明るいのだと考えている。

Let's Start a Renaissance in the Dental World !

President, Japan Dental Association

Hideto TAKAHASHI

The joy of eating and communicating is important for maintaining a good quality of life. The oral environment is closely associated with systemic diseases, and improvement of the oral environment will lead to a reduction in the ever-increasing medical costs. In other words, early treatment of disease risks through dental checkups and other means will extend the healthy life expectancy for patients and bring about positive outcomes for the country. There is still much room for dentistry to play a more active role, and we propose to challenge the current paradigm with confidence and dignity.

Key words : Oral Environment, National Health Insurance System, Universal Dental Health Checks